

[015]九州大学ビジネス・スクールニューズレター

<https://hdl.handle.net/2324/2228923>

出版情報：九州大学ビジネス・スクール ニューズレター. 15, pp.1-, 2012-08. 九州大学ビジネス・スクール
バージョン：
権利関係：



KAISTレポート

5月18日にソウルに来て、6月5日にM&Aの授業をはじめた。KAISTのビジネススクールは、春学期が2月から始まり秋学期が9月から始まる。現在は夏学期である。私は夏学期の授業を一コマ教えている。週に火曜日と木曜日の2回、15コマ英語で教えて最後に最終試験を行う。KAISTのビジネススクールは、技術、金融、メディアの3つに分かれている。私のM&Aの授業を取っている学生は15人だが、ほとんどは金融コースの学生である。金融



コースは、3学期目に英米のビジネススクールに留学に行くことになっている。2年生はまだ留学先から帰ってきていない者も多いため、ほとんどは1年生である。英語は少し日本よりできるもののたいして積極的に発言するような学生でないとわかったため日本と同様にこちらからあてている。私の書いた日本語の本が事前に読めないで授業内容をどのくらい理解しているか心配だ。成績をつけなければならないため、最終試験まで頭が痛い。

村藤 功(企業財務、企業価値創造とM&A)

QANだより



今年度のQAN会長をさせて頂く事になりました6期生の宣と申します。2012年度も、様々な活動を通して、QAN会員の縦、横の絆を作り、学びと成長の機会を作る事を目的としています。

特にアジアにおける学生、ビジネスパーソンとの交流を行い、アジアビジネスの促進、リーダーシップのあり方を学ぶ事に力を入れていきます。

具体的な活動内容としては①海外の他大学や企業との交流事業、②アジア各地で活躍している修了生、短期留学生のネットワークづくり、③定期的なワークショップや講演会の開催、④QBS10周年記念行事やクリスマスパーティ、QBSフォーラムを通してのQBSへのサポート等です。

QANには300名近くの様々なバックグラウンドを持った会員があり、刺激的な(?)学びの場が沢山あります。会員の方のみならず現役学生、関係者の方々、各イベントへの参加をお待ちしております。(持ち込み案件も熱烈歓迎です。)一年間宜しくお願い致します。

宣 虎長(6期生)



QAN総会

在校生紹介



畠田 憲司さん(9期生)
所属
九州旅客鉄道株式会社

自己の潜在能力を引き出し、今後発生する様々な機会を仕事や私生活に最大限に活かすためにQBSに入学してから1年余りが過ぎました。この間、私が最も大きな財産だと感じたことは、得難い仲間たちに巡り会えたことです。私は学生会を通じて約1年間、在校生や修了生の方々とともに様々なイベント企画に従事してまいりました。行動力と創造力のある仲間に出会えたおかげで、大変意義のある充実したイベントを開催することができました。

QBS生活も残すところ8か月ですが、まだまだ学び足りないことが山ほどあると痛感しております。かつてこれほどまで貪欲に学びたいと感じたことはありません。日々の講義では、仲間たちとのディスカッションやプレゼンを通じて、あらゆる価値観やモノの考え方を学ぶことができ、とても密度の濃い時間を過ごせます。残された学生生活の1分1秒を大切に、より多くの気づきを仲間や先生方から発見したいと思います。



日比野 晶子さん(10期生)
所属
アステラス製薬株式会社

QBSに入学して4か月。刺激的で充実した日々を過ごしています。

講義を通じて多くの知識を得るに加え、様々な分野で活躍されている先生方や先輩・同級生との対話を通じ、今まで自分には無かった物の見方を学んでいます。留学生から外国の現状や風習を見聞し、日本のやり方が世界で必ずしも通じないこと、国々で異なるルールがあることに気付かれます。

新しい考え方を知り、自分の仕事に置き換えて考えてみる。こうすると今まで見てこなかった課題やその解決方法に気付くことがあります。

また講義の他に、私は現在ビジネスプラン・コンテストの企画運営に携わっています。講義で学んだことをビジネスプランに落とし込む本コンテストには他大学MBAコースの学生も参加します。本企画・運営の活動を通じ、ものごとの進め方や学内外との連携を経験しています。

この2年間で多くの知識、考え方を吸収し業務に役立つ実践的な学びができるよう、周りに感謝しながら日々過ごしていきたいと思っています。



編集発行／九州大学ビジネス・スクール
担当／QBS事務局
住所／〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1
電話／092-642-4278
メールアドレス／bs@en.kyushu-u.ac.jp

●九州大学ビジネス・スクールに関するお問い合わせ
〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1
九州大学貝塚地区事務部教務課学生第四係
TEL.092-642-4167
ホームページ http://qbs.kyushu-u.ac.jp/

TOPICS

QBS大学説明会・オープンキャンパス 開催迫る!

福岡会場

■模擬講義：平松 拓教授
日時：2012年8月17日(金) 18:30-20:35
場所：JR博多シティ10F会議室
※当日は高田 仁准教授による模擬講義も予定しております。

QBSでは財務や会計に関連する科目がそれぞれ複数開講されていますが、ビジネス・スクールに入学すれば、苦手な人も他人任せにすることはできません。

当日は、担当教科である「ファイナンシャル・マネジメント」の科目説明を行いながら、マネージャーにとって重要な機能である「意思決定」を行う上で財務や会計をどう役立てるか、その一端をお話しできればと思います。



本模擬講義では、「財務会計」における国際財務報告基準(IFRS)と我が国の会計基準における利益概念について学習します。企業の基本目的は利益の追求です。その利益の考え方について、利益の量、利益の質、純利益、包括利益、収益費用中心観、資産負債中心観、財産法、損益法など様々な観点から学習します。

熊本会場

■模擬講義：岩崎 勇教授
日時：2012年8月24日(金) 18:30-20:35
場所：くまもと県民交流館パレア会議室7
※当日は高田 仁准教授による模擬講義も予定しております。

QBS大学説明会
オープンキャンパスへの申込み方法

参加ご希望の方は、参加会場名・氏名(フリガナ)・連絡先(自宅または勤務先住所)・郵便番号・電話番号・メールアドレスをご記入の上、九州大学ビジネス・スクール事務局にE-mailまたはFAXにてお申込み下さい。

九州大学ビジネス・スクール事務局
E-mail:qbs@en.kyushu-u.ac.jp FAX:092-642-4336

オープン
キャンパス

■模擬講義：星野裕志教授
日時：2012年9月15日(土) 17:00-19:05
場所：九大箱崎キャンパス経済学部棟209教室
※当日は吉田基樹教授による模擬講義も予定しております。

ビジネス・スクールでは、実在する企業や業界などを題材として、多角的なディスカッションを行うことで、分析力・洞察力や戦略構築の能力を高めるマネジメント・トレーニングの手法として、ケース・メソッドという教授法を行っています。当日は、国際経営の科目を想定しながら、参加いただく皆さんに、臨場感のあるビジネス・スクールの双方向性の講義を体験していただきたいと思います。

この模擬講義では、MOT科目である「イノベーション・マネジメント」と「知識マネジメント」に関連するトピックを取り上げます。日本の鉄鋼メーカーにおける高炉操業エキスパート・システムの開発事例に関するディスカッションを通じて、

組織的な知識の共有がどのようにイノベーションの創出に結びついていったのかを理解する手掛かりを提示します。参加者の皆さんが積極的にディスカッションに参加されることを期待しています。

北九州
会場

■模擬講義：永田晃也教授
日時：2012年8月31日(金) 18:30-20:35
場所：北九州小倉興産㈱KMMビル第4会議室
※当日は中村裕昭教授による模擬講義も予定しております。

九州大学ビジネス・スクール
[MBA 課程]11期生募集

募集人員／45名 出願期間／2012年10月1日(月)～10月5日(金)

選抜方法／第一次試験：出願書類審査

第二次試験：口頭試問ほか[2012年11月3日(土)・4日(日)]

入学試験に関するお問い合わせ先

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1 九州大学貝塚地区事務部教務課学生第四係
TEL▶092-642-4167 E-mail▶kagakusei4@jimu.kyushu-u.ac.jp URL▶http://qbs.kyushu-u.ac.jp/



TOPICS

QBS教員紹介

今回のQBS教員紹介は、高田 仁准教授です。



2011年5月、日独修好150周年記念シンポジウム（ペルリン）のパネルディスカッション後、ノーベル賞の小林誠先生と

QBSの設立に合わせて着任し、はや10年目になりました。元々工学部出身で、大手メーカーにエンジニアとして勤務の後、専門の違う大学院（建築／地域計画／都市計画）へ進学、その後コンサルタントや技術移転機関（東大TLO）勤務を経て、母校である九大に着任して今に至ります。着任後は、QBSでの教育研究に加えて、知的財産本部にて大学で生まれた研究成果の商業化を促すため産学連携マネジメントの実務に長く携わっていました。東大TLO時代から含めると膨大な数の大学研究者、企業の研究開発や新規事業担当者、ベンチャー経営者の方々と話をする中で、大学等の研究成果の商業化には大きな可能性がある一方で、実現には依然として多様なハードルが横たわっていることを痛感させられていました。

そんな中で、九州大学にアントレプレナーシップ教育のためのセンターを設立するという構想が持ち上がり、その設立準備のため2009年にMITに約半年間滞在する機会を得ました。ハイテク産業の聖地といえばシリコンバレーが有名ですが、ボストンもまたハイテクのメッカで、特にMITはその中心です。現地コミュニティにどっぷり浸かって理解したのは、優れた研究成果や個々人のビジネス・マネジメントのスキルだけでは商業化は進まないということです。そこには、3つのポイントがありました。一つ目は、中心的プレーヤーであるアントレプレナーの存在、二つ目はアントレプレナーが力を発揮できる自由度の高い環境、三つ目は、ステークホルダーが共通認識として持つ商業化の標準的プロセスです。

最近はこの3つのポイントを日本／九州の環境でどのように実現するかという点を重視し、従来の産学連携マネジメントに加えて、アントレプレナーシップの獲得や醸成、科学・技術商業化の標準プロセスの確立、それに関連する教育研究に注力しています。

そのため、QBSの他にQREC（九大ロバート・ファン／アントレプレナーシップ・センター）で全学的なアントレプレナーシップ教育に携わるほか、工学府水素エネルギー専攻との燃料電池／クリーンエネルギー関連の共同研究や研修プログラム、QBSのビジネスプラン・コンテストなどに関わっています。また、ILCという次世代加速器を中心とする国際研究都市構想にも高い関心を持っています。大学が、高次の学びの場であるとともに、学びを統合して実践するexecutionの場として機能してほしいと思っています。

高田 仁（産学連携マネジメント、ビジネスにおける競争優位性特論）

QBS BOOKレビュー「この1冊」

今回のQBSブックレビューは、鈴木右文准教授のおすすめの「この一冊」です。

『「大学英語教育学会基本語リスト」に基づくJACET8000英単語』（桐原書店）



日本のビジネス界がかつてのようにまた興隆するためには、海外に桁違いの働きかけをしていかなばなるまい。そのときに、相変わらず日本の高校以下の英語教育は運用スピードを上げるための訓練になっておらず、大学に進学してきた学生がせっかくTOEFLを受験しても読解の問題すら解き終わらない。

日本人の留学志望者も半減した。一方で中国や韓国の大学生は日本の大学生よりはるかに英語が出来る。

従ってこの状況を何とかしようと思えば、大学とビジネス界が英語に力を入れざるを得ない。語学はしゃかりきに取り組みねば身につかないのだが、その第一歩にしてしかも敬遠され気味なのが語彙の増強である。そこでお勧めするのが『「大学英語教育学会基本語リスト」に基づくJACET8000英単語』（桐原書店）。英語教育の専門家たちが寄ってたかって選び抜き重要な順に配列して例文をつけた8000語（これは一般英語学習者が達成すべき最終目標である）が掲載されている。知らない単語は読み取れないし聞き取れないので、単語はすべての基礎だ。

ところがこの本、本稿執筆現在、中古でしか手に入らない。これは日本の状況を象徴している。楽をして学習できることをうたい文句にする教材の多い中、本物のひとつ。これが売れない状況を放っておいてビジネスが成功したと言えるのだろうか。

鈴木右文（異文化コミュニケーション）

ビジネスプラン・コンテストワークショップ 開催



「株式投資に特化したソーシャルプラットフォームをつくる」

これが私たちのチームが考えた新たなビジネスプランのコンセプトです。現在、このアイデアの具現化に向けその一歩を踏み出しています。

今回はそのきっかけとなった「ビジネスプラン・コンテストに向けてのQBSワークショップ（全二回）」の活動をご報告します。

ワークショップ第1日目は、「良いアイデアはどのように生まれるか」について理論的に学び、各人が考えているビジネスアイデアを出し合いました。次に各人が考えていたそれぞれのアイデアを

TOPICS

「エレベーター・ピッチ」という1分で相手に自分の考えを要約して伝えるという手法を何度か繰り返し洗練させていきました。その中から評価の高かった数名のアイデアを選び、チームに分かれ、そのアイデアを実際のビジネスへの実現に向けて検証する作業を行いました。長時間に渡る議論を経て完成した最終成果を各チーム3分程度で発表しました。ちなみに私たちのチームは6チーム中最下位でした。

今回のワークショップに向け、自分たちが考えているビジネスモデルは「本当に顧客が必要としているのか？」など市場調査をする事にしました。そこで私たちは「もしカブ（もしも…株式投資をはじめたら）」というUstreamの番組を制作し市場調査をしました。結果、顧客ターゲットが違うことが判明！早急にビジネスモデルを大きく変更し2日目のワークショップに臨みました。

ワークショップ2日目は「ビジネスモデル・ジェネレーション」という本のフレームを用いてビジネスモデルをシンプルに直感的に理解できるように表現しました。「顧客」「価値提案」「インフラ」「資金」と領域に分け、組織構造・プロセス・システムを通じて実行される戦略も考える事ができました。この作業はメンバー全員で価値観を共有する事ができ、新たな価値を創造する事ができました。

そして、私たちはこの日のチーム対抗戦においてみごと優勝する事が出来ました。

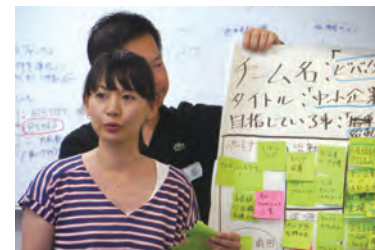
今後、ビジネスプランコンテストに向け、もっともっと精査し優勝を目指します。更には



コンテストだけで終わらず実際のビジネスとして立ち上げられるように全力で取り組んで行きたいと思います。

今回、貴重な機会を頂きました九州大学ビジネススクールの永田専攻長、高田先生、ゲストコーディネーターの山本伸さん、飛澤さん、その他関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

阿久津岳生、増本衛、佐藤大介（10期生）



修了生紹介



八尋 大八さん
（6期生）
所属
株式会社ヤヒロ
代表取締役社長

QBS入学当時は大学を卒業後にメーカーで3年間営業として勤務した後、家業を継いで4年が経過しようとした頃でした。私の場合は実家に戻ってすぐに父が亡くなったため、戻ってから数年は右も左も分からずにとにかく前だけ向いて進むことで精一杯でした。3年が経ち少し仕事にもなれた頃を感じたのは、自分が思い描いていた会社の未来と現状のギャップの大きさ。また当時の自分が持ち合わせるスキルでは目標達成にとても時間がかかるという不安でした。ちょうどそんな頃にラジオから流れるQBSの話を耳にして、何かを変えたくてQBSを目指しました。入学後は新しい知識を吸収するたびに点と点が繋がる感じがとても刺激的で、仕事後の授業も宿題もまったく苦になりませんでした。さらに情熱的な先生方との出会いや、人生を通してともに戦える友人との出会いはいくらお金をかけても得られるものではありません。そのような出会いを通して、自分自身が仕事や会社のことに囚われ視野を狭めていたことに気付かされました。これからはQBSでの学びと出会いを生かし、ビジネスを通して世界を変えるべく挑戦し続けたいと思います。



藤井 弘貴さん
（8期生）
所属
株式会社タナベ経営

QBSを修了して改めて振り返ってみると、入学を志していた頃に求めていたものよりも多くのものを得ることが出来たと実感しています。同じ志を持ったクラスメイトとの講義、ゼミ、イベント、国際交流と多くの機会に恵まれました。また、QBSネットワークならではの先輩方や経営者の方々とお会いする機会もあり、自分の経験したことのない経営やビジネスのお話を伺うことによって、視野を広げることが出来たと感じています。仕事や家庭もありましたが、毎日が楽しく、気付けば入学から2年の前期まで週6日QBSに通っていました。QBSでの2年間は、私にとって非常に示唆が多く、刺激的な毎日で大きな転機となりました。経営理論と実践的な経営のことを知れば知るほど、この分野で働いてみたいという想いが強くなり、2012年8月から経営コンサルティング会社に転身しました。今後は自分の経験とQBSで学んだ専門知識をより実践的なフィールドで生かしていきたいと考えております。